

会派視察・研修報告書

会派名 自民クラブ

代表者名 柴田 雅也

1 日 ち	令和 8年 2月 2日 (月)
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	富山県射水市八幡町1丁目4番20号 NPO 法人水辺のまち新湊 「天神の家」
3 参 加 者	柴田雅也、城處裕二、玉置真一
4 調査・研修の テーマ	NPO法人 水辺のまち新湊 中心市街地のまちづくりについて
5 主な内容	<p>NPO 法人 水辺のまち新湊は、地域住民や来訪者にとって住みやすく訪れたくなるまちづくりを目指し、様々な活動を行っておられます。まちづくりの推進と啓発として、内川周辺の景観美化や環境保全、空き家・遊休施設の活用などを進めておられます。移住促進として、空き家を活用した移住交流宿泊施設『天神の家』や宿泊体験施設「ほうじょうづ」の運営など、移住者の受け入れ促進にも取り組んでおられます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 団体設立の経緯等について 2 行政との関係性・役割分担について 3 財源確保・持続可能な運営について 4 人材確保・担い手育成について 5 水辺空間活用・まちづくりへの効果について 6 課題・失敗・乗り越え方

【柴田 雅也】

かつて栄えていた中心市街地が時代の変遷により、人口減少、高齢化により、衰退していく街中の課題をどのように解決して新しい時代へと持続可能なまちづくりをしていくのか？は本市にとって大きなテーマである。そして、課題解決のための活動組織として NPO がまちづくりにどのように持続的に機能するのか？まちづくりの課題解決の一助になると考えて、今回の富山県射水市の NPO 法人水辺のまち新湊を視察先に選んだ。はじめに、この NPO 法人水辺のまち新湊の取り組みについて整理した。水辺のまち新湊は曳山祭りという江戸の中期ぐらいから伝わるこの町一体の一番大きなお祭りの中心街である。「引山（祭りの山車）」を維持したいという切実な動機がある中で、祭りの担い手確保とともに古い建物が壊されることが問題となっている。それは新しい街並みに昔の古い「引山」を並べても、景観的にあまり良くないという街の景観維持であり、そのために空き家問題解決に取り組むことであると理解した。このように新湊のまちづくりの主体である NPO 法人水辺のまち新湊の活動が持続的になるために、以下の取り組みは参考になった。

空き家問題へのアプローチ

・ 片付けの工夫 金沢の「送り家」活動のような、ボランティアを巻き込んだ「前向きな片付け」が、所有者の心のハードルを下げる有効な手段になり得る。

稼ぐ NPO へ

・ 収益化のアイデア 宿泊施設（ゲストハウス）の運営：単なる提供ではなく、クオリティ管理（清掃など）がリピーターを生む。

・ 仲介手数料の代替 空き家入居成約時に「2年間の会員入会（NPO 会費）」を依頼。

・ 「仲介業」として踏み込むか、あくまで「紹介」で会費をもらうか。組織の法的リスクと収益のバランスを検討する材料となる。

メディア（ロケ地）活用の波及効果

・ 撮影隊の滞在費（4,000 万円という例も）や、放映後の聖地巡礼は、直接的な観光収入だけではなく、住民が自分の街に誇りを持つ（シビックプライド）きっかけになる。

視察を終えて・・・

多治見に置き換えてどのように考えるか？について整理する。

・ 視察で得た「空き家成約 18 件」という具体的な数字をエビデンスとして、多治見市に対しても「民間（NPO 等）が動くための環境整備」は重要である。

・ 「荷物が多すぎて貸せない」という所有者に対し、まずは 1 軒、モデルケースとして「片付けイベント」を実施し、成功体験を共有する。

・ 若い世代（意匠研究所の研修生など）が実際に住み、活動する姿を「見える化」し、街の活気を取り戻す。

最後に新湊と多治見。水辺と陶器という違いはありますが、「古いものを守り、新しい命を吹き込む」という本質は同じであると認識した。

多治見市も同じく空き家問題や有効活用について不動産のプロである企業さんとの協力は重要と考える。

6 所感、提言事項、
課題等

【城處 裕二】

NPO 法人 水辺のまち新湊は、2005 年日本のベニスとも称される、北前船の中継地として栄えたまち並みの保全、内川周辺のまちづくりを目的に当時の商工会議所メンバーを中心に設立された。

発足後は、「青少年ホーム」や「川の駅」等の建物管理委託を受けていたり、「移住交流促進事業」の補助金を受けて移住体験施設の運営管理を行ったりしてきたが、現在では、行政の補助金の削減により縮小している。

古いまち並みや文化行事、映画・ドラマ・CM等のロケ地としてもこのまちの持つポテンシャルは高く、持続可能な稼げる NPO を目指して活動されている。

課題として共感した事は、自分たちだけで抱え込むのではなく若い人にも理解を求め参加してもらうこと。

また補助金等だけに頼らない経営を目指すことであった。参考にしたいところである。

【玉置 真一】

NPO 法人水辺のまち新湊は、「日本のベニス」と称される内川エリアを拠点に、地域の活性化や景観保全、交流人口の拡大を目指して多岐にわたる活動を行っています。

まちづくりと活性化について

水辺のまちづくり促進として内川周辺の景観美化や環境保全活動をされておられた。

空き家・遊休施設の活用等の取り組みは、移住促進のため、空き家対策や移住体験施設の紹介等をされておられた。

観光振興のとの組として、映画やドラマのロケーション撮影支援、観光ルートの開発。内川遊覧も人気との事であった。

地域との交流について

地域住民と来訪者が交流できるイベントを企画、地域の文化や芸術、歴史ある建造物の維持・継承に取り組の取り組み、また福祉事業として、高齢者向けのオアシスサロンなど、住民向けの福祉活動も実施されているとの事でした。

多治見市も空き家の有効活用についてこれまで取り組んできた。

所有者、地権者さんとの同意が必要、そもそも所有者さんと連絡が取れない、実際は居住していないが荷物が残ったままになっているなど課題は同じでした。

リノベーション工事などの費用について、補助金ありきでなくクラウドファンディングを行われたがなかなか集まらなかったとの事、クラウドファンディングではなく、企業廻りをして寄付金などを募りやっとな資金集めることができたとの事。

空き家物件情報は不動産関係の民間企業との共有が重要と思われる。



7 写真等

※視察の場合は必須、
研修の場合は任意



※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。